

**研修コースごとの主な内容 ※ オンラインで受講可能な研修**

コース	研修名	主な内容
初級	初めて学ぶ統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計データの活用と統計リテラシー</li> <li>・データの見方と分析の基本</li> <li>・統計制度と公的統計</li> </ul>
	統計担当者向け入門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計調査（調査の全体）</li> <li>・統計調査入門</li> <li>・データ分析入門</li> <li>・統計グラフの基礎・作成</li> <li>・e-Statの利用</li> <li>・地図で見る統計（jSTAT MAP）</li> </ul>
中級	統計利用の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要統計指標の見方・使い方</li> <li>・景気動向と経済統計</li> <li>・地域経済と統計</li> <li>・人口問題と人口統計</li> <li>・行政評価と統計</li> </ul>
	調査設計の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の全体</li> <li>・調査計画の策定・承認申請</li> <li>・統計調査の実例</li> <li>・調査の審査・集計</li> <li>・公表、提供</li> <li>・調査の品質管理</li> <li>・標本調査法</li> <li>・意識調査</li> </ul>
	統計分析の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述統計基礎・演習</li> <li>・推測統計概論・演習</li> <li>・重回帰分析の基本</li> </ul>
上級	統計データアナリスト研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括講義・品質管理概論</li> <li>・調査計画と実査</li> <li>・標本調査の実務</li> <li>・審査集計概論</li> <li>・審査集計演習</li> <li>・民間委託における留意点</li> <li>・公表、提供</li> <li>・事例を通じて考える公的統計の品質確保・向上</li> <li>・評価・改善概論</li> <li>・政策立案・評価に必要な統計の利用</li> <li>・政策立案・評価に必要な統計分析概論</li> <li>・公的統計の原則と政策</li> </ul>

## 本科（総合課程）（上級コース）※集合研修で学ぶ内容

分野	主な内容
基礎	統計解析ソフト（R）によるグラフ作成演習として、統計解析ソフトRやExcelによって統計グラフを用いてデータを適切に説明できるようになること
統計学	<p>記述統計、推測統計として、「統計分析の基本」（中級コース）で学んだ内容を復習し、Excelを用いた演習を通じて理解を深めること</p> <p>データ分析として、教育用標準データセット（SSDSE）を用いて、自らの関心に基づくテーマについてRによる相関分析や回帰分析ができるようになること</p> <p>時系列解析として、様々な手法を学び、Rによる演習を通じて、公的統計に利用が見込める解析手法が活用できるようになること</p> <p>多変量解析として、Rを用いた多変量解析手法の演習を通じて、多変量解析が活用できるようになること</p>
統計調査論	<p>統計調査として、調査の企画・設計から実施、集計・公表まで統計調査に関する基礎的・理論的な事項を網羅的に習得すること</p> <p>国際統計として、世界の統計体系、国際基準及び国連のデータなど国際統計の情報源について理解すること</p> <p>統計分類として、産業分類と生産物分類について理解するとともに、世界の様々な分類体系や経済統計における分類の適用事例等について学ぶこと</p>
人口・社会統計分析	<p>人口分析として、人口統計に関する理解を図るとともに、人口統計を利用した人口現象の基礎的な分析手法を習得すること</p> <p>社会分析として、基礎的なデータ収集方法とデータ分析について学び、社会調査データを用いた社会現象の分析手法等について理解を深めること</p>
経済統計分析	<p>経済分析基礎理論として、ミクロ経済学及びマクロ経済学の基礎理論、経済分析手法などについて学び、経済分析を行う力を養うこと</p> <p>国民経済計算として、SNAの主なフレームワークやSNAを中心とした経済データの分析手法を理解すること。また、県民経済計算として、県民経済計算の理解と県民経済計算を用いた地域の経済力を評価する基本的な指標や活用方法について学ぶこと</p> <p>産業連関分析として、産業連関表を初步から学ぶとともに、産業連関表の仕組み、産業連関分析の基礎、その他応用分析や分析手順について学ぶこと</p> <p>労働・雇用分析として、雇用と賃金、求人・求職状況に関する統計を、政府統計を中心に概観し、調査目的と基礎的な分析手法を学ぶこと。さらに、属性ごとの賃金構造に関する分析やクロス表作成の実習などを行うこと</p> <p>消費・物価分析として、消費・物価統計の体系と調査概要、物価指数理論、消費・物価分析の手法等について学ぶこと</p>

	<p><u>生産分析</u>として、生産、設備投資及び輸出に関連する各種の経済統計について学び、統計の報告・加工・利用の3つの側面から経済統計の理解を深めること</p> <p><u>経済・金融統計の見方</u>として、GDPを始めとする各種景気関連指標の見方・使い方を学びとともに、財政・金融に係る指標の変化について議論すること</p>
研究	<p><u>発表のための資料作成方法</u>として、分析発表のための資料の収集・作成方法や取りまとめの方法について学ぶこと</p> <p><u>調査企画（グループ演習）</u>として、統計調査の企画・設計から集計・公表に至る一連の事務の模擬実施を通じて、統計調査に関する実務知識を深めること</p> <p><u>個人研究</u>として、研修で学んだ統計理論や分析手法を用いて各自が選んだテーマの研究・分析・レポート提出・発表を行うこと</p>
統計データ アナリスト研修	<p><u>統計データアナリスト研修</u>として、総括講義・品質管理概論、調査計画と実査、標本調査の実務、審査集計概論、審査集計演習、民間委託における留意点、公表・提供、事例を通じて考える公的統計の品質確保・向上、評価・改善概論、政策立案・評価に必要な統計の利用、政策立案評価に必要な統計分析概論、公的統計の原則と政策について学ぶこと</p>
特別講義	統計に関連する特定のテーマに関する講義